

# 東京都立産業技術大学院大学

令和6（2024）年度実施

一般入試筆記試験（小論文）問題

## 【出題意図】

問いについての理解力・調査能力、自己の考え方、およびその表現力をはかる。

※入試問題の著作権は本学に帰属します。無断での公開・配布等、本学の著作権に触れる行為は厳に慎んでください。

## 小論文

問 データ・ドリブン・マーケティングとは「データ志向のマーケティング」※を指し、戦略目標をもとにデータベースを構築し、顧客分析を通してマーケティング施策を行うものである。データ・ドリブン・マーケティングを行うことは、企業のビジネスを成長させる上で重要な戦略の一つと考えられている。これらを踏まえ、以下の問題1から3に解答せよ。

問題1：データ・ドリブン・マーケティングにおいてビッグデータの分析が重要かどうかについて、あなたの立場を明らかにした上でその理由について200字以内で述べよ。

問題2：リアルタイムのデータ収集と分析が、実際のマーケティングにどのように組み込まれているか。具体的な業界の事例を挙げてその効果を400字以内で述べよ。

問題3：データ・ドリブン・マーケティングに基づく意思決定と、熟練の担当者の勘や経験に基づく意思決定と、どちらをあなたは重視するか。あなたの立場を明らかにした上でその理由を具体例とともに400字以内で述べよ。

※ Jeffery, M. (2010). *Data-driven marketing: the 15 metrics everyone in marketing should know*. John Wiley & Sons. (ジェフリー, M. 佐藤純, 矢倉純之介, 内田彩香(訳) (2017). データ・ドリブン・マーケティング：最低限知っておくべき15の指標 ダイヤモンド社)

## 小論文

問 2024年5月21日、欧州での生成AIを含む包括的なAIの規制法\*が成立し、規制内容に応じて欧州域内で2030年12月31日までに段階的に施行される。この法律では、人の健康や安全、基本的人権に影響を与える可能性があるAIシステムをハイリスクのAIシステムと位置付けている。

先端的技術と人間社会の調和の観点から、以下の問題1から3に解答せよ。

問題1：上記法律では、ハイリスクのAIシステムの例として、企業の採用活動におけるターゲットを絞った求人広告、応募者の選別や選考に用いられることを意図されたAIを挙げている。このようなAIがなぜ危険なのか、あなたの考えを300字以内で述べよ。

問題2：AIに限らず、先端的な技術の創造が社会に問題を引き起こすことがある。あなたが知るこのような問題に属する事例を一つ挙げ、200字以内で説明せよ。

問題3：前問のような技術と社会の問題について、新しい技術を開発する者はどう向き合うべきか。あなたの考えを200字以内で説明せよ。

※Council of the EU, REGULATION OF THE EUROPEAN PARLIAMENT AND OF THE COUNCIL laying down harmonised rules on artificial intelligence and amending Regulations (EC) No 300/2008, (EU) No 167/2013, (EU) No 168/2013, (EU) 2018/858, (EU) 2018/1139 and (EU) 2019/2144 and Directives 2014/90/EU, (EU) 2016/797 and (EU) 2020/1828 (Artificial Intelligence Act), 2024

## 小論文

問 『知には、暗黙知と形式知の二つの次元がある。「暗黙知」は、言語や文章で表すことが難しい主観的で身体的な知であり、「形式知」は、言葉や文章で表現できる客観的で言語的な知である』<sup>1)</sup> という考え方がある。この考え方にに基づき、以下の問題1から3に解答せよ。

<sup>1)</sup> 野中 郁次郎, イノベーションの本質, 学術の動向, 2007, 12 巻, 5 号, p. 60-69

問題1：組織の中で暗黙知が継承され、その組織の強みになるとしたら、どのような場合か。自分の考えを、300文字以内で述べよ。

問題2：企業による事業活動の中で、暗黙知をできるだけ形式知とすべきだと考えた場合、どのようなメリットとデメリットが考えられるか。理由を含めて200文字以内で述べよ。

問題3：企業による事業活動の中で、暗黙知を効率的に形式知にするためには、どのような方法が重要か。自分の考えを、300文字以内で述べよ。

## 小論文

問 生成 AI 技術が急速に進化し、いまや個人でも簡単にテキストだけでなく画像や動画、音声などの多彩なコンテンツを作成できる時代になりつつある。このように有効な活用の可能性は大きくなる一方で、生成 AI 技術に対する社会的な影響や懸念も指摘されている。このことについて、以下の問題 1 から 3 に解答せよ。

問題 1：生成 AI 技術を用いたコンテンツの作成に関して規制強化を求める動きが世界的に広がっている。なぜ、その規制を行う必要があるのか。生成 AI 技術により発生した問題事例を交えて、その理由を 400 字以内で述べよ。

問題 2：生成 AI 技術の有効な活用方法としてどのようなことが考えられるか。あなたが考える具体的な活用事例とその活用事例を取り上げた理由を 400 字以内で述べよ。

問題 3：生成 AI 技術の活用において、どのような規制が考えられるか。具体的な提案を 200 字以内で述べよ。